

寺 報

龍正寺

日なた 161 号

皆 皆
安 穩

日 延



<令和 3 年 10 月>

宝 龍 会
護 持 会

令和3年秋季彼岸会開催しました

令和3年9月23日（木・祝）



緊急事態宣言中ではありますが、感染予防対策を行いご先祖様供養させて頂きました。



感染予防のマスク・フェイスシールド着用して、10月10日の御会式会のお花を1人でも多くの方に広げて頂きました。

第七四〇遠忌

宗祖日蓮大聖人御会式会

南無妙法蓮華經

報恩感謝謝德

宝雲山龍正寺住職 拜

往 職 一 言

原祖日蓮大聖人第740遠忌お会式会を迎える10月です。皆様 日蓮大聖人に合掌して下さい。

当山では、10月10日お会式会報恩法要をいたします。
法華經、妙法蓮華經見宝塔品第11より

『その時に寶塔の中より大音聲をいだいて歎めて
のたまわく、善哉善哉、釋迦牟尼世尊、よく平等大慧、
教菩薩法、仏所護念の妙法華經をもって大衆のため
に説きたもう、かくの如し、かくの如し釋迦牟尼世尊所
説のごときはみなこれ眞實なり。』

(解説)

その時に寶塔の中より大きな声が聞こえたのである
よいか、よいか、釋迦牟尼世尊はあらゆる人間
を救われるという、平等大慧である。菩薩を教え導
くところの高い教で仏が常におまもりになるという、
妙法蓮華經を大勢の者におときになっていられる、お
前らがおいていられるとあり釋迦牟尼世尊の説法はけ
つしてまちがいない眞實な教えであるぞ。合掌
南無妙法蓮華經.....

「秋季彼岸供養にて」

先週に寺院にて彼岸供養が行われました。。
私は寺院の役員... おりも役員見習いの立場を
有ると思ひ、また精選をいおりすが... またまた... ..

今日の彼岸供養では来月に控える私の母の23回忌法要
の事も有り、母の塔婆は特別塔婆にて申し込ませ
て頂きました。

私の母は54歳で他界し、父は59歳で他界しました。
今でこそ言える事がすが... 当時は街を歩いても、
テレビを観ても... 父母おりも長生きをしている人達を
見かけると無性に立腹していた記憶があります。。

そんな私もあれから20数年が経ち...
母と同じ年齢に近づいてきました。

先週の秋季彼岸供養の際も母の特別供養にて
焼香している時に私はこんな言葉を伝えました...

「お母さん元気でるか? 今なら沢山の孝行が出来ると
おもいますが... けれど僕が生きている限りは
父さんと母さんを回向供養ほすから
どうか安心して下さい...」 と...

言葉を伝えた瞬間に私の身体が震え
涙が溢んできました。

焼香を終え、私は寺院の裏の廊下を歩きながら
「私の言葉とには父母に伝えている」と
そんな気持ちになりました。

もしかたらの夢物語なんぞでいい
来世は親子にはならない... そんな気がしていきなり。

だからこそ現世で親子になったこの縁に感謝して
供養に行こうと思いました。

父母の御霊に届くように南無妙法蓮華経

～ 倅せな結縁 ～

日蓮大聖人様とご縁も頂いて 33年ほどになります。

当初は色々な悩み事の相談で参拝していました。

今思えば、只々愚痴はき出していた様に思います。

はやリ言葉ではありませんが、「穴があったら入りたい!!」と
思います。

しかし、当時は何も気づく事が出来ませんでした。

自分の考えは正しい!と頑なに思っていました。

何度も寺院へ参拝して、苦しみ、波動をひとつひとつ乗り越えていく中で、怒り・苦しみ・悲しみ……数々の感情は、自己の考え方ひとつで喜び・慈愛・倅せになる事に気づく事が出来ました。

それは、難が訪れ、難が取り除かれる妙法を頂けたからだと思います。難も取り除く・乗り越えるには、他力では出来ません。自己に気づく事!! しかし、我(が)邪魔をして、気づいた事を認めれず否定をしたくなる。”頭ではわかっているけど…気持ちには…”と自己の中で格闘していましたが、その部分が乗り越えた時、とても心が

楽になりました。

そのような経験を幾度となく積み重ねていく事が出来ました。
今は冷静に感情的になっている自分に、御題目を唱えている
と、クールダウンし、落ち着いて改めて考える事が出来る様になり
ました。

するとふと日蓮大聖人様の祖訓や佐口上人様のアド
バイスか浮かんできます。その言葉を素直な気持ちで受け止
め、実行出来る様になりました。

10月13日は宗祖日蓮大聖人様と結縁の御会式会
です。(龍正寺では10/10日に行います。)

どのような時代であっても明るく人生になりますように、日蓮
様のお膝元でご縁を結びましょう

南無妙法蓮華經

お地蔵さま

お地蔵さまは 道端やお寺の入口
お墓の入口に ひっそりと立って下さる石仏
さまです ようそと迎えて下さるようです
かわいらしくて 愛らしくて 庶民の方々より
何かと親しまれる お地蔵さまです
とお地蔵さまの本にかいてあります

赤いお帽子に 赤いよどかけ 真かなは紅で
おしやれな お地蔵さまのようです

お地蔵さまのご本よりのお言葉の一句
一句が心にしました

全国あちら、こちらのお地蔵さま かん音
さまであたり お不動明王さまの石仏さま
よりのお言葉が 記してあります

そのお言葉の中より 自分が感じた思いの

ことばを横にかいてみます

どのページも乱読で汚れています

赤線もいっぱい引きます 次に又読みます

時にその赤線を読み返します

自分さがしは一生つづく

今かたくしは80オーバーですが 本当の
自分とはどんな人なんだろう!! 心の鏡に
果てまで内いてみます 一番わからないのは
自分と学びます

心の毒はまめてすてよう

色々あると思うようになって ゆかぬことが常の
ようです 誰にもあることなのですが ぐち
不足 不平 怒りなどなど言いたくなりますが
これらのことばを積み重ねてゆく中で 病気を
つくり 身体を害することと学びました

いろんなこと... 心の毒はやっぱり
まよめてすてゆくことがいいようです

学びと真似は ちゃんとちがう

でも真似てゆくうちに本物になってゆく
ことも学びました まよえてゆく中で
学び有りと思ってみます

試練の門は多々いよいよ

人生は登り下りのくり返し

若い時は登り坂 年を重ねて下り坂
人生には3つの坂がある 登り坂 下り坂
おさかの坂 おさかの坂に気をつけましょう
おさかの坂は 仏さまが 先祖さまの
身を守り護りて 大難は 小難 小難は
無難の中より たすけて頂けすことを思ひます

今うして置かされていると自体が奇跡と
学びます 今ある自分の置かされたところを

感謝の花と添えてよろこびの日々を

すしでも明るくたのしむことで

ゆきたく存じます

ひざが寒くて杖をついての日常でございますが

皆さまにお世話をおかけ致すばかりでございます

ます お寺(龍正寺)までのお参りの折にと

お若い信徒の方が椅子を出して下さったり

荷物を持って下さったりとおせわになっております

有りがたくよろこびの参拝でございます

丸印がお地蔵さまのおことばです

9月13日のご法話です...

常に水の流れるごとく心に教えを
忘れぬように刻んでゆくことの大切さを学びま

した ご先祖さまに報恩感謝の心で

日々御礼申し上げます。ありがとうございました 合掌



上野殿御返事より

9月13日の法要後、祖父江上人様から法話をお聞きしました。

御遺文「上野殿御返事」の一文です。

日蓮聖人に三度目の流罪が噂されていた頃、信者の一人である南条時光に宛ててのお手紙です。信者の中には度重なる法難によって日蓮聖人のもとを去る者も増えてきたにそうです。そんな中、深く日蓮聖人に帰依し続けた時光に対して、信仰のあるべき姿を伝えて内容でした。

「^{そそ}抑も今の時、法華經を信ずる人あり、

^{ある}或は火の如く信ずる人もあり

或は水の如く信ずる人もあり

聴聞する時は火然立つばかりと思えども

遠ざかりぬれば捨てる心あり

水の如くと申すは、いつも退せずとわせ給えは

水の如く信ぜさせ給えるか

とうとし　とうとし　」

法華經を信じる人の中には火のように信じる人。

水の如くに信じる人がいる。

教えを聞いた時は、燃え立つ如くに信仰するが、
時が経つとその気持ちを捨てることがある。

水の如き信仰というのは、いつも退くことよく続ける
こと。あなたは水の如くに常に退くことよく信じて
おられ、尊いことです。

という内容です。龍正寺とのご縁を頂き、二十年
以上経ちますが、その気持ちを捨てる人を何人
も見てきました。私の信仰は水の如くと言える
ものなのでしょうか...と自問自答しながら水の
如くありたいと思いました。人生、何度も辛い事は
起きます。でも、それを人のせいにするのではなく、
今の自分に乗り越えられないから与えられた試練
なんだと捉えると少し気持ちが前向きになる経
験をさせて頂き、同じ状況にある人と出会った
時には、親身になっていの支えになってあげられ
る気がします。

まだまだ日々精進です。10月10日の法話も
楽しみにしています!!

南無妙法蓮華經

「法華題目鈔より」

仏道に入る 根本は 信をもて 本とす

日蓮聖人御遺文 「法華題目鈔」
聖語解説 … 求道

茶道、華道、柔道、剣道、弓道など、日本古来の
伝統文化、スポーツには、「道」が付くものがたくさんあり
ます。これらに共通するのは奥義を極めようとする
求道心が芽っているということではないでしょうか。
その鍛錬の中で自ずと技も磨かれ向上してい
くのです。

ところで、この奥義に達するためには、自らが
心身もろともその世界に飛び込み、一体化を
目指さなければならぬことでしょう。

これすなわち、仏道で説く「信」に通じるといえましょう。「道」は「信」によって達するのです。

『法華題目鈔』

本鈔は女性信徒に与えられた書状です。表題が示す通り、法華經の題目である「南無妙法蓮華經」に具わる功德くどくと、それを唱える人の功德が明解に説かれています。

さらに「根本大師門人日蓮にちれん撰」と署名される如く、日本における法華經信仰の流れを伝教大師最澄さいしょうに受けていることを表明しています。

一書を通じて「正直」と「信心」が肝要であることを強調されています。

9月に入り、お題目を信シンに入れたくお経を唱えていたが、9月末にカレンダーのこの内容を目にしておとしました。

“本当の信じる心がなければ道は開かれない。”
そこに気がついたことで、手の合わせ方、気持ちの持ち方が少しずつ変化してきました。

日々手を合わせて自身の気持ちと向きあい向上していきたいと思っています。

< 10月の行事予定 >

10月10日(日) 12:30~

読誦会

13:40~

{ 報恩御会式会
佐渡法難会

10月18日(月) 10:00~

鬼子母尊神
七面大明神) 祈禱会

< 10月住職の予定 >

寺院にて法務

< 10月の予定 >

10月3日(日) 13:00~

飾り付け

4日(月)

各々の時間で

清掃準備

↓

↓

↓

8日(金)

9日(土)

9:00~

飾り付け

10日(日)

法要後

片付け、準備

11日(月)

各々の時間で

清掃準備

↓

↓

↓

17日(日)